

[A年] 降誕節第1主日(2020年12月27日)**【旧約聖書日課】 イザヤ書60章1～6節**

1 起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り
主の栄光はあなたの上に輝く。

2 見よ、闇は地を覆い
暗黒が国々を包んでいる。
しかし、あなたの上には主が輝き出で
主の栄光があなたの上に現れる。

3 国々はあなたを照らす光に向かい
王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。

4 目を上げて、見渡すがよい。
みな集い、あなたのもとに来る。
息子たちは遠くから
娘たちは抱かれて、進んで来る。

5 そのとき、あなたは恐れつつも喜びに輝き
おののきつつも心は晴れやかになる。
海からの宝があなたに送られ
国々の富はあなたのもとに集まる。

6 らくだの大群
ミディアンとエファの若いらくだが
あなたのもとに押し寄せる。
シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。
こうして、主の栄誉が宣べ伝えられる。

【使徒書日課】 エフェソの信徒への手紙3章2～12節

2あなたがたのために神がわたしに恵みをお与え
になった次第について、あなたがたは聞いたにち
ががありません。3初めに手短かに書いたように、秘
められた計画が啓示によってわたしに知らされま
した。4あなたがたは、それを読めば、キリストに
よって実現されるこの計画を、わたしがどのよう
に理解しているかが分かると思います。5この計画
は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされ
ていませんでしたが、今や“霊”によって、キリスト
の聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。
6すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエ
スにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒
に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあ
ずかる者となるということです。7神は、その力を
働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える
者としてくださいました。8この恵みは、聖なる者
たちすべての中で最もつまらない者であるわたし
に与えられました。わたしは、この恵みにより、
キリストの計り知れない富について、異邦人に福

音を告げ知らせており、9すべてのものをお造りにな
った神の内に世の初めから隠されていた秘めら
れた計画が、どのように実現されるのかを、すべ
ての人々に説き明かしています。10こうして、いろ
いろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、
天上の支配や権威に知らされるようになったので
すが、11これは、神がわたしたちの主キリスト・イ
エスによって実現された永遠の計画に沿うもので
す。12わたしたちは主キリストに結ばれており、キ
リストに対する信仰により、確信をもって、大胆
に神に近づくことができます。

【福音書日課】 マタイによる福音書2章1～12節

1イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘ
ムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者
たちが東の方からエルサレムに来て、2言った。「ユ
ダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこに
おられますか。わたしたちは東方でその方の星を
見たので、拝みに来たのです。」3これを聞いて、
ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、
同様であった。4王は民の祭司長たちや律法学者た
ちを皆集めて、メシアはどこに生まれることにな
っているのかと問いたました。5彼らは言った。「ユ
ダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いていま
す。

6『ユダの地、ベツレヘムよ、
お前はユダの指導者たちの中で
決していちばん小さいものではない。
お前から指導者が現れ、
わたしの民イスラエルの牧者となるからであ
る。』」

7そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼
び寄せ、星の現れた時期を確かめた。8そして、「行
って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら
知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言って
ベツレヘムへ送り出した。9彼らが王の言葉を聞いて
出かけると、東方で見た星が先立って進み、つい
に幼子のいる場所の上に止まった。10学者たち
はその星を見て喜びにあふれた。11家に入ってみ
ると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひ
れ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳
香、没薬を贈り物として献げた。12ところが、「ヘ
ロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったの
で、別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

イザヤ書60章1～6節

- 1 起きよ、光を放て。..
あなたの光が来て
主の栄光があなたの上に昇ったのだから。..
- 2 見よ、闇が地を覆い
密雲が諸国の民を包む。..
しかし、あなたの上には主が輝き出で
主の栄光があなたの上に現れる。..
- 3 国々はあなたの光に向かって歩み
王たちはあなたの曙の輝きに向かって歩む。..
- 4 目を上げて、見渡してみよ。..
彼らは皆集って、あなたのもとに来る。..
あなたの息子たちは遠くから来て
娘たちは脇に抱えられてやって来る。..
- 5 その時、あなたはそれを見て輝き
心は喜びに震える。..
海の宝があなたにもたらされ
国々の富があなたのもとへやって来る。..
- 6 らくだの大群
ミデヤンとエファの若いらくだが
あなたのもとに押し寄せる。..
シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来て
主への賛美を告げる。..

エフェソの信徒への手紙3章2～12節

- 2あなたがたのために私に与えられた神の恵みの
計画〔別訳→務め〕について、あなたがたは確かに
聞いたはずですよ。3初めに手短かに書いたように、
啓示によって秘義〔神秘〕が私に知らされました。..
- 4あなたがたは、それを読めば、私がキリストの秘
義をどのように理解しているのかが分かります。..
- 5この秘義は、前の時代〔直訳→他の時代〕には人
の子らには知らされていませんでしたが、今や霊
によってその〔別訳→神の/キリストの〕聖なる
使徒たちや預言者たちに啓示されました。6すなわ
ち、異邦人が福音により、キリスト・イエスにあ
って、共に相続する者〔別訳→共同相続人〕、共
に同じ体に属する者、共に約束にあずかる者とな
るということです。7神は、その力を働かせて私に
恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださ
いました。8この恵みは、すべての聖なる者のうちで
最も小さな者である私に与えられました。キリス
トの計り知れない富を異邦人に告げ知らせ、9すべ

てのものを造られた神の内に永遠の昔から〔別訳
→世々〕隠されていた秘義がどのようなものであ
るかを、すべての人に明らかにするためです。10こ
うして、神の豊かな〔直訳→多種多様の〕知恵が、
今や教会を通して天上の支配や権威に知らされる
ようになったのですが、11これは、神が私たちの主
キリスト・イエスにおいて実現してくださった永
遠の計画に沿うものです。12キリストにあって、私
たちは、キリストの真実〔別訳→キリストへの信
仰〕により、確信をもって、堂々と神に近づくこ
とができます。..

マタイによる福音書2章1～12節

1イエスがヘロデ王の時代にユダヤのベツレ
ムでお生まれになったとき、東方の博士〔別訳→
占星術の学者〕たちがエルサレムにやって来て、
2言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった
方は、どこにおられますか。私たちは東方でその
方の星を見たので、拝みに来たのです。」3これを
聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの
人々も皆、同様であった。4王は祭司長たちや民の
律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれ
ることになっているのかと問いただした。5彼らは
王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者
がこう書いています。..

- 6『ユダの地、ベツレヘムよ、
あなたはユダの指導者たちの中で
決して最も小さな者ではない。
あなたから一人の指導者が現れ
私の民イスラエルの牧者となるからである。』
- 7そこで、ヘロデは博士たちをひそかに呼び寄せ、
星の現れた時期を確かめた。8そして、こう言って
ベツレヘムへ送り出した。「行って、その子のこ
とを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。私
も行って拝むから。」9彼らが王の言葉を聞いて出
かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに
幼子がいる場所の上に止まった。10博士たちはそ
の星を見て喜びに溢れた。11家に入ってみると、幼
子が母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して
幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香〔フラン
キンセンス〕、没薬〔ミルラ〕を贈り物として
献げた。12それから、「ヘロデのところへ帰るな」
と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分
の国へ帰って行った。..

黙想のためのノート**次主日聖書日課について**

・12月27日「降誕節第1主日」の日課主題は「東方の学者たち」。教団「新しい教会暦」に基づく主日聖書日課A年(マタイ福音書の年)の福音書日課は、降誕節第4主日から降誕節第2主日までで順に、主イエスの降誕物語を取り上げている。

・主イエス降誕物語の中でも、「東方の学者たち」の来訪の出来事は、西方教会で「公現(エピファニー)」の記念と結びつけられてきたため、聖書日課では「公現日」または「公現の主日」に該当福音書箇所が充てられてきた。一方、同じ1月6日に「公現日(エピファニー)」を記念する東方教会では、この日を「主イエスの洗礼」と結びつけて記念してきた。西方教会で「主イエスの洗礼」を記念するのは、「公現日」後の主日である。近年の西方教会の主流で「降誕日」後の主日(降誕節第1主日)に設定されている聖書日課主題は「聖家族」で、「聖家族の主日」などと呼ばれる。

旧約日課(イザヤ60章より)

・「イザヤ書」は、ユダヤ教正典中「後の預言者」の最初に置かれた預言書であるが、「律法と預言者」の編纂において要となる文書である。「律法と預言者」の編纂と共に形成されたバビロン捕囚後のユダヤ教共同体(ユダヤ人社会)において、宗教共同体としての神学を基礎づける文書としての権威を有したと考えられる。その神学の一つの焦点は、「ナタン預言によって約束されたダビデ王家永続は不変であり、神は、自らの王国を建設されるためにダビデ王家の者を時に応じて用いられる」という確信にある。これは、当初は「ダビデ王家」の神的根拠を主張する「王朝神学」として始まった思想であったと考えられるが、「イザヤ書」は、預言者イザヤの時代(前8世紀)の「南王国存続」という射程の中で告げられた預言を、前6世紀のイザヤ後継預言者集団である「第二イザヤ」が「新しい(異邦人をも含む)大イスラエルの民の建設」という預言にまで拡大して再定義することによって、より普遍的な宗教共同体としての神学の基礎を提供するものとした。日課箇所は、この「第二イザヤ」(40章以下)の後半部分に含まれる終末的救済預言である。

・日課箇所の預言は、「第一イザヤ」(~39章)中の9:1~6などに対応した預言の更新と見ることができる。「第一イザヤ」中で預言者イザヤが預言を告げる相手として登場する王は、アハズとその子ヒゼキヤがある。「列王記」では、アハズ王に対する評価が非常に低いのに対して(王下16:2~4)、ヒゼキヤ王に対する評価は高く、「ダビデ王」と同様に主に従ったとされている(王下18:3~4)。預言者イザヤがアハズ王に告げる「男児誕生預言」(7章「インマヌエル預言」、9章、11章など)は、当初はアハズ王の跡継ぎであるヒゼキヤ王の誕生と即位という事態を射程に告げられたものであるとすることができるが、「第二イザヤ」と共に一つの

「イザヤ書」として編集編纂される過程で、より歴史的射程の長い預言として位置づけられるようになったと考えられる。日課箇所も、9章の預言が当初、アハズ王およびヒゼキヤ王の時代のアッシリアからの圧迫を「暗闇」と捉え、そこからの解放という希望を「光」として示しているものであったと理解されるが、2世紀後の「第二イザヤ」は日課箇所、バビロンの圧迫・捕囚を「暗闇」と捉え、そこからの解放を「光」の到来として再解釈してみせようと考えられる。

・9章と日課箇所(60章)の両方に、「ミディアン」に関する言及がある。「ミディアン」は、アブラハムを祖とする部族として認識され、モーセの妻も「ミディアンの祭司の娘」として伝えられるように、「イスラエル」とは非常に近い関係性の中で描かれている。「出エジプト記」から「士師記」までたびたびイスラエルと対峙する部族として登場する。しかし、日課箇所に取り上げられる「ミディアンとエファ」は、おそらく、イスラエル王国時代以降、アラビア半島で「シェバ」などと同様に隊商国家として存在した人々のことを指している。この6節のイメージは、おそらく「ソロモン王の富」のイメージ(王上10章など)を敷衍したものであろう。そして、この「シェバの人びと」が携えて来るという「黄金と乳香」のイメージはまた、「マタイ福音書」の「東方の学者」の携えてきた「宝」のイメージのもととなっている。

使徒書日課(エフェソ3章より)

・「エフェソの信徒への手紙」は、使徒パウロの書簡の一つで、「コロサイの信徒への手紙」と共に、パウロと「アジアの七つの教会」(黙示録1章)との関係性を強く示唆する文書となっている。「エフェソ」や「コロサイ」など「アジア州」は、元々、ローマ人でもギリシア人でもない人々が都市国家を形成していた地域であるが、ローマ帝国時代には、各都市が競ってローマ皇帝への忠誠を示すために、皇帝礼拝のための神殿を建設するなどしたことが知られる。一方で、「黙示録」で採用されるような東方宗教的な天上世界の観念を広く共有する文化を受け入れていたとも考えられ、パウロも本書簡では、そのような表現を多用している。

・日課箇所では、異邦人を含み入れた信仰共同体を「キリストの体としての教会」として表現する本書簡と視点の中で、宇宙論的な「キリストの体としての教会」というイメージを構想する中に、異邦人を含めたすべての地上のものが一つの神の支配の中に置かれていることを示している。イエス・キリストがもたらしたものは、そのような宇宙論的な「新しい大イスラエル共同体」であるというのが、本書簡でのパウロの告げることである。このことを語るために用いられている「キリストの体としての教会」というイメージは、「コリントの信徒への手紙一」12章でも用いられているが、「コリント一書」では極めてローカルな地域教会共同体における一致を教えるためにこのイメージが用いられているので、「エフェソ書」とは視座が異なる。

福音書日課(マタイ2章より)

・日課箇所は、「マタイ福音書」の描く主イエス降誕物語の後半の第一部。主イエスが「ダビデの生誕地」とされる「ベツレヘム」(サム上16章)で生まれたということ強く主張する内容であり、物語の中で「民の祭司長たちや律法学者たち」に「預言」を解釈させることによって、初代教会がユダヤ教主流派に対して「主イエス」を「メシア」と位置づけることの正当性を主張するものとなっている。

・主イエスの生誕地については、「マタイ」と「ルカ」の両方の降誕物語が「ベツレヘム」であることを物語っているが、事情はそれぞれに異なる。マタイでは、主イエスの出生時に両親がベツレヘムに「家」を所有して在住していたという前提で描かれているが、ルカでは、「住民登録」で両親が一時的に「ベツレヘム」に滞在していたときに誕生したものとされている。実際には、どの福音書も主イエスを「ナザレ出身」として伝えており、その事実と生誕地が「ベツレヘム」であるべきであるという「預言」神学を整合させるために、それぞれの降誕物語では調停的な脚色がされたものと考えられる。もっとも、どちらにしても重要なことは、「ダビデの町」として知られる「ベツレヘム」をルーツとして示すことで、主イエスが「ダビデ王家」の出自であるということに印象付けることにあったと考えられる。

・「占星術の学者」は「マゴス(マギ)」で、東方宗教(バビロン・ペルシャ宗教)で権威を持っていた「賢者」を指す。東方宗教の知的源泉は「星の運行(天文学・占星術)」にあり、彼らは単なる「賢者」というよりは、一般の知識人として位置づけられる人々であった。「博士」という訳語がしばしば用いられるが、東方教会でも西方教会でも伝統的には「王」の訳語で位置づけられてきた。おそらく、日本語の「博士」でイメージされるよりもはるかに政治色の強い立場の者として受けとめられたのが「マゴス」である。

・6節の引用元は「ミカ書」5:1であるが、「ヘブライ語聖書」の同箇所とは明らかに意味が逆になっている。これは「ギリシア語旧約聖書(七十人訳)」とも一致しない。おそらく、これは引用ミスではなく、「マタイ福音書」記者が意図的に、この福音書の拠って立つ神学的視点に基づいて改変したものであろう。すなわち、「小さな者」は、小さな者として軽んじられることなく、重んじられ、決して「いちばん小さいもの」として扱われるべきではない、という視座である。

来週の誕生日 (12月27日～1月2日)

。

来週の誕生日 (1月3日～9日)

。

主日礼拝の讃美歌から

- ・21-268 番「朝日は昇りて」(= I 97)は、日本人が作詞作曲し1881年版『讃美歌』から歌い継がれてきた。作詞は奥野昌綱(ヘボンの日本語教師、ブラウンの聖書翻訳助手などで活躍)。当初、木岡英三郎の作曲が付されていたが、1931年版から鳥居忠五郎の作曲で歌われている。
- ・21-269 番「飼いばおけにすやすやと」(= I)は、17世紀米国で知られるようになったクリスマスキャロル「Away in a manger」で、北米のみならずヨーロッパでも様々な曲と組み合わせられてきた。日本では1931年版『讃美歌』で採用されていたが、『讃美歌21』で再び採用された。
- ・21-278 番「暗き闇に星光り」(I 118「くしき星よ、やみの夜に」)は、19世紀イギリスで作られた公現日のための讃美歌。作詞者R・ヒーバーは、「聖なる、聖なる」(21-351)の作者。初行の「星 stars」は、原曲では「息子ら sons」。
- ・21-180 番「去らせたまえ」は、「シメオンの賛歌」を歌う賛歌。スイスの宗教改革者J・カルヴァンの教会で音楽を担当したブルジョワが作曲し、カルヴァン編纂の「ジュネーブ詩編歌集」に収められてきた。

21-269「飼いばおけにすやすやと」

Away in a manger

1. Away in a manger, no crib for a bed, / the little Lord Jesus laid down his sweet head. / The stars in the sky looked down where he lay, / the little Lord Jesus, asleep on the hay.
2. The cattle are lowing, the baby awakes, / but little Lord Jesus, no crying he makes; / I love thee, Lord Jesus, look down from the sky / and stay by my cradle till morning is nigh.
3. Be near me, Lord Jesus, I ask thee to stay / close by me forever, and love me, I pray; / bless all the dear children in thy tender care, / and fit us for heaven to live with thee there.

21-278「暗き闇に星光り」

Brightest and best of the stars of the morning

1. Brightest and best of the sons of the morning; / Dawn on our darkness and lend us thine aid; / Star of the East, the horizon adorning, / Guide where our infant Redeemer is laid.
2. Cold on His cradle the dewdrops are shining; / Low lies His head with the beasts of the stall; / Angels adore Him in slumber reclining, / Maker and Monarch and Savior of all!
3. Say, shall we yield Him, in costly devotion, / Odors of Edom and offerings divine? / Gems of the mountain and pearls of the ocean, / Myrrh from the forest, or gold from the mine?
4. Vainly we offer each ample oblation, / Vainly with gifts would His favor secure; / Richer by far is the heart's adoration, / Dearer to God are the prayers of the poor.

21-180 番「去らせたまえ」

Nunc Dimittis

Nunc dimittis servum tuum, / Domine, secundum verbum tuum in pace: / Quia viderunt oculi mei salutare tuum / Quod parasti ante faciem omnium populorum: / Lumen ad revelationem gentium, et gloriam plebis tuae Israel.